

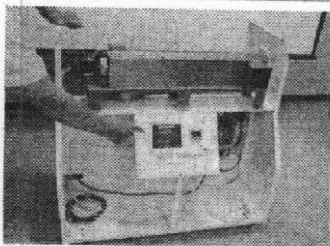
過熱水蒸気で暖房機

スズテック ビニール栽培向け投入

【宇都宮】スズテック（宇都宮市、鈴木康夫社長、028・664・1111）は、環境事業へ参入する。水と電気を熱

源にする過熱水蒸気式暖房機（写真）を2011年末に発売する。灯油に比べランニングコストや二酸化炭素（CO₂）排

出を削減できる。価格は約80万円で、まず農家にビニール栽培用に投入し、その後学校や病院などへ拡販。3年間で20



00台の販売を目指す。主力の農業機械以外への

進出で、経営多角化を進める。

同社は稲の田植え機など農業機械の製造・販売が主力。春のシーズン以外に、秋や年間を通じて販売できる商品の投入が経営課題となっていた。

過熱水蒸気は100度Cで蒸発した水蒸気をさらに加熱したもので、通常の加熱空気より高い熱伝導性を持つ。同社は水と電気で水蒸気を発生させ、これを電熱ヒーター

で最大500度Cに2次加熱する。その後、加熱した空気と混ぜて約200度Cの温風にして送る。すでに試作機が完成しており、今後農家での実証実験を重ねる。

またアンシブル（宇都宮市、志水清子社長、028・610・1237）が開発した電力測定器「エコワイズ」の販売代理業も今月下旬に開始する。配電盤などに取り付け、消費電力をリアル

タイムにモニターできる。基本価格は約50万円で、年120台の販売を目指す。